



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:0593-31-1670
 ☎:0593-32-0733

揭示板法話

光は「ぬくもり」となり

皮膚感覚で伝わる



読者の皆様、新年おめでとうござい
 ます。1月号をご覧いただくこの時期
 は、一年中で最も寒さ厳しい季節です
 ね。でも、昔から我々の先輩たちは新
 年を「新春」とか「初春」と呼ぶことよ
 つて寒さや試練を乗り越える智慧を働
 かせてきました。

智慧の世界とは濁りの世に生きる
 我々には到底認識も理解も及ばぬお悟
 りの世界ですが、慈悲となって動いて下
 さることよつてのみ、我々に感知され
 る可能性が拓かれます。分かりやすく
 言えば、智慧は「光」、慈悲は「ぬくも
 り」と表現できるでしょう。

私が数年来使用している手帳には、
 一般公募された優秀作品の「名言」が
 添えられています。二〇〇八年用に買
 い求めた手帳には、

「きょうはあしたのたのしみ」

という言葉がありました。それは、当時
 五歳の子供が、夏休みに新幹線でおは
 あちゃんの家へ行くのが待ち遠しくて、
 日記に書いた一文で、それをメモしてお
 いたお母さんが応募した作品でした。
 とところが、その受賞者が「門徒の家の

お嫁さんだとおばあさんから知らされ
 びつくり。お祝いを申し上げつつ、しみ
 じみと喜びを分かち合ったのでした。

男の子の母親は「息子の言葉のおかげ
 で落ち込んだ日にも『きょうはあした
 たのしみ』と一人つぶやくと元気をもら
 えます」と語ってくれました。

孫から母へ、母から祖母へと「ぬくも
 り」のバトンタッチがされています。この
 お宅には報恩講、年回法要、お盆参り
 など年間に何度もお参りさせていただ
 きますが、いつでも沢山の親戚、一族郎
 党、老若を問わずお参りされる伝統が
 相続されています。だから、東京に所帯
 を持つ若夫婦のお子さんも新幹線に乗
 つておばあちゃんの家へ法事に行くのが
 楽しみなのです。ぬくもりとは理屈で
 はなく、皮膚感覚で伝わるのですね。

翻つて現代は、余りにも人為的な生活
 環境のため感覚が衰えて、「ぬくもり」
 のバトンタッチが難しくなっています。
 報恩講をお迎えするに当り、こうした
 課題意識を共有したいと思えます。

☆行事ご案内☆

◇1/1 朝9時より「元旦会」本堂で正信偈

「報恩講」講師：藤大慶先生(茨木市)

1/11日午後1時半、夜7時半「春の海」生演奏

12日午前10時・午後1時：三全仏婦主催報恩講

※13日から16日まで午前7時より「お朝事」茶話会

※11日午前11時より12時お非時(昼食)をお召し上がり下さい。

※15日バスで本山参拝(三重組十三日講の代表参拝)

募集：3/21中日劇場観劇「法然と親鸞」

1カ寺10名程、12000円。希望者はお早めにお申し込み下さい

三重組コーラス※1/9(水)10時半陽光苑誕生会

慰問(9回目)

※1/26(土)夜7時半練習「娘達よ」「聖夜」「風に向か
つて」他、童謡など

◇12/31夜11時45分より「除夜の鐘」

子供はお菓子付き。誰でも撞けます。お誘い合わせてどうぞ!

キッズサンガ・杉の子合唱団・1月は元旦会に家族揃って来てね。
お年玉(お菓子)をプレゼント。

一縁会テレホン法話：059・354・1454へお電話を。5
人の講師が週替わりで3分間の法話。24時間いつでもOK。



平成19・12・8キッズサンガ

親子2代3組の母と子が手作りマフィンケーキに挑戦。

お母さんと一緒に食べる焼きたてのケーキは最高に美味しかった!



2007御堂演奏会 平成19年11月22日

三重組コーラス49名参加(5回目)

参加人数では全国一位。コーラスのわが全国的。
初日784名、2日目691名。全6曲披露

三重組コーラスの

頼りになる男性陣

数少ない男性だけが

ステージ上に着席

坊守スケッチ

求めない生き方



わが子が小中学生の頃、成績表を貰う度に、私は深いため息をつきました。受験生の頃には、偏差値に感嘆され「どうして出来ないの？」と責める場面も結局「期待は失望の元」と諦めムード。詩人の相田みつを氏は「育てたように子は育つ」と言われましたが、私の子育ては失敗ではなかったかと後悔しています。子供の教育に限らず、私達は実現が困難なことまで、相手に求めます。

私の夢は家族旅行と外国旅行ですが、一度も実現したことはありません。毎朝六時の鐘撞きや仕事に追われ、簡単に寺を留守に出来ません。しかしせつかく早起きしたのだから、散歩しようと三十年前に方向転換。そのおかげで四季折々の自然に触れる喜びを体験し、早朝の感動ドラマを年中見られる恩恵に与りました。もし美味しいものを食べ歩く旅行ができ、朝寝坊出来る境遇だったら、今頃は運動不足で成人病になっていたかもしれない。素晴らしい旅の思い出と引き換えに、私に健康を賜ったのだから、人生これでヨボヨボかなあと自分自身を慰めています。

ところで私は、最近静かなブームになっている素敵な本に出会いました。加島祥造著「求めない」という詩集です。その中の一部分を「紹介しましょう。「求めない」といま充分に持っている」と気付く「求めない」といま持

っているものが生き生きとしてくる」「求めない」としても案外生きてゆけると知る「求めない」と自分に必要なのは何か分かってくる「求めない」と求めた時に見えなかったものが見えてくる「求めない」と時はゆっくり流れ始める」等加島氏は「欲望を抑えよというのではない。体よりも頭だけが求め過ぎると、余計なものまで求める。私の詩のベースは、老子の『足るを知る』思想。今恵まれているものに満足し、それを受け入れるならば、豊かな生き生きとした暮らしに繋がる」と語っています。

人間は何かを求めずにはいられない存在ですが、求めすぎる余りに自分を苦しめ、他人を傷つけることもありま。他人に求める場合には、求め過ぎて裏切られたと嘆きます。始めから求めなければ、騙される心配もなく、ストレスもありません。また自分に求める場合にも、求め過ぎると、他人と争い、せかせかと時間に追われる毎日。そんなに焦って先を急がなくても、まじめに努力するならば、自然と結果は付いてきて道は開けるものです。

昨今の食品偽装は、利益追求最優先の結果起った事件でした。二〇〇七年の世相を表す漢字は『偽』。賞味期限を張替えたラベルは『偽』。自分の舌と鼻こそ本物。ブランド名や値段、数字に惑わ

されるのではなく、自分の培った豊かな感性で、ゆっくり味わいましょう。「求めない」とあなたの中に何かが変わるはず！そうすれば、もつと自由に、もつと楽に生きられるのです。



☆ホットニュース☆

- ☆一月十一日(金)夜七時半「報恩講」で、琴とフルートの生演奏「春の海」を披露。フルートはNHKにも出演されたプロ。二名の琴も師範。乞うご期待!
- ☆一月十五日(火)善正寺より十五名がバスで本山参拝。三月十三日「三重組十三日講」の初講会所に当たるため、三重組を代表して参拝します。ご本山報恩講のお祈りを頂きます。
- ☆三月二十一日(金)十一時中日劇場「法然と親鸞」の観劇募集中。一万二千円。(交通費・チケット・昼食含む)一カ寺十名程度。人数に制限がありますので、希望者はお早めにお申し込みを!

三重組コーラス♪

- ※一月九日(水)午前十時半陽光苑 昨年二月より十回目の慰問。誰でも可
- ※一月二十六日(土)夜七時半練習 七月の別院音楽祭に向けて「娘達よ」「聖夜」「風に向かつて」その他童謡など

キッズサンガ・杉の子合唱団



- ◇除夜の鐘 夜十一時四十五分より 誰でも撞けます
- ◇一月一日(火)午前九時より元旦会 本堂で正信偈。新年のスタートは家族揃ってごっぞー!

☆寄稿

- ☆四日市市 川崎孝一 四日市市 川崎孝一 仏旗掲ぐる 御堂近付く
- ☆満堂の内外点る ろうそくの 光明仰ぐ 西勝精舎
- ☆久に逢う 陽光苑に 餓鬼の友 養兎繁殖 想い出話す
- ☆四日市市 釈弘蓮 四日市市 釈弘蓮 揺れて輝き アロハオエ
- ☆式章が 揺れて輝き アロハオエ 世界は一つ (2007御堂演奏会にハワイ別院から特別参加。閉会式にフラダンスを披露され、感激しました)
- ☆カンバ有難う☆ 柴田美津代様・他数名様よりお志や切手等を頂戴しました。
- ◇お悔やみ申し上げます★
- ★山中惟生様(七十三歳・西阿倉川・十一月二十七日亡) 合掌

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第一六九号をお届けします。◇読者の皆様、新年おめでとございます。平成となって早くも二十年、あつという間の二十年だなあ、と感慨ひとしお。◇「昭和」から「平成」に変わった日、亡父が過ぎ去りし昭和を惜しむかのごとく、食い入るようにテレビの臨時ニュースを覗いていた姿を思い出す。◇当時バブル経済の真っ最中だど誰も気づかなかった。有名ブランドに群がり、偽ブランドが横行する現代。本物に遇えない闇からの解放はいずれに。

明けましておめでどうございませう。新年早々に日蓮と善正寺の報恩講です。「ボウオンゴウ」とは「親鸞さまありがたうの集い」です。何も受け取った覚えがないから仰れなと言えないと言う人があるかもしれませんが法話を聞いてあなたの故から歩踏み出してみませんか？広い世界が待っている筈です。仏教は気づき目覚め出会いです。今年は何人の寺友に出会えるか楽しみにして下さい。先日、知多半島の側から伊勢湾に沈む夕日を眺める機会に恵まれました。普段西の鈴鹿山脈に沈む夕日しか知らない私は海面にキラキラ輝く夕日に感動しました。合掌して「ゴメン」とカウンティングしながら日の入りを見送りました。おそらく親鸞さまも越後に流罪になられた五年間、日本海に沈む夕日に合掌され、海の向こうの極楽浄土をイメージされたのかも知れません。念仏彈正を受けず京都に留まっていたら比叡山の夕日しか知らない苦宗教学者の山折哲雄氏は「親鸞聖人の著作物」に「教行信証」や「和讃」の全ての頁に「海」という文字が出てくる」と語っています。私達が慣れ親しんでいる「正信偈」にも「本願海」「群生海」「大宝海」「大智海」と山使われています。海は全てのものを抱き取りてくれる優しいお母さんのようです。そこに私達は安らぎの世界を見出し出すのです。正信偈を読んでこの部分が出てきたら、皆さんもよく味わってみて下さい。今年の報恩講（昨夜の舞）には琴とフルートによる「春の海」が演奏されます。どうか皆様お誘い合わせてお参り下さいませ。今年も善正寺をよりよろしくお願ひします。

平成二十年一月

善正寺坊守様

合掌